

# すすむし

Vol.2 No.7

1952年7月

鳥取昆虫同好会

## 蝶の採集と研究(5)

(クロアゲハの蛹化)



水野 弘造

1951年12月のある日、附近のカラタチで見つけたクロアゲハの前蛹体を枝ごと切って持ち帰った。幼虫はそのまま2日間じっとして変化がなかったが、2日目の夜、心と見ると、今まで緑色であった幼虫の体があわ色になっており、小くざつをもようが入っている。おや!と思って見つめていると、体を左右にくねくねと動かしだした。そして、表面の皮にしわが寄ったな、と思うと頭部が皮を破って出て来た。幼虫はずつと体を動かしている。頭部が完全に出た。胸部と腹部も次々と出て、体をあうつていたうすい皮はしわくちゃになって尾端にぶら下がっていた。そして幼虫は完全に蛹になってしまった。しかし体はまだ軟く、色もうす青色でとても火々しい感じだ。しかしそれも2時間たって見たら、もうかっ色の固い蛹となっていた。蛹になるための皮を脱ぐ作業はだった5分間の仕事だったのである。——以上が僕の見たところだ。

次に、先の“桜谷の蝶類”の中に書いたウラギンスジヒヨウモン蝶類型のことについて少し述べよう。

昨年の6月13日、いつものドツに隣の平田君ヒ二人で桜谷へ採集に行つた。その頃は丁度、ヒヨウモン蝶類、ゼフィルス類の発生期で、種々の新鮮空蝶が取れる。二人とも思い思いに網をひって歩いて行く。僕が丁度キイチゴの木のそばを通ろうとした時、そのキイチゴの茂みの中か

2(60)

う一匹の新鮮なヒヨウモンが飛び出た。帶中で網を振った。パサパサと網の中で音がする。始めた! と云う具合にして取った一匹のウラギンスジヒヨウモンが「蝶類図譜」と云う本の中に出ていた極めて稀にしか採集されないと云う雌雄型の蝶の一匹であったのである。しかしこの蝶は、雄ヒ雌との差がメスグロヒヨウモンやスジグロチヨウのようにあまりはっきりしていないので、その時はそんなものであるとは易にも思ひ下す、すぐに殺して三角紙に包んだのである。それから三日後、ラベルにその蝶が雄であるか雌であるかを記入するため、その蝶をよく見ると、左の翅の先には小さな白い実があるのに右翅にはないことに気が付いた。これは変だと思ってなおよく見ると、翅や胴体の各部に左右が同じでない所があるのである。そこで参考書でしらべてみると、その蝶の右翅が雄の特徴に、左翅が雌の特徴に、完全にあてはまるので雌雄型ではないかと思ったので理科担任の小西先生の所に持つて行くと、先生はさらに昆虫のことにくわしい人のところへ持つて行って下さい、とうとう元倉駿の元農研に居られた深谷博士によって、ほんとうに雌雄型であり、又この種での雌雄型はこれが日本で初めての記録であると云う事が明らかにされた時の僕のうれしさは云葉や文では表わす事が出来ない位である。おそらく一生懸命この喜びは忘れられないであろう。

ではこの蝶について僕のしらべた事を書いてみよう。

- 学名は *Argynnis laodice japonica* Ménétries (*gynandromorphia*)
- 和名は ウラギンスジヒヨウモン (雌雄型)
- 採集日は 1951年6月13日
- 採集地は、岡山県吉備郡総社町桜谷

この蝶は体の右半分が雄、左半分が雌に分かれている。体の半分ずつが雄と雌とに分かれているのだから、もちろん翅及び胴体の半分ずつが異った特徴を持つている。その主な事を記そう。すなはち、

- 左翅翅端の白紋は右翅にはない。

## 3 (61)

- 右翅、共1、2脉の密血管は左翅にはない。
- 複眼は右が大きい。 ○前足の構造が左右異なる。
- 後翅は左が大きい。 ○尾端には右にだけ毛が生えている。
- 翅端は右翅が尖っている。
- 翅は右左共に茶色であるが、右翅の方が左翅の色より明かるい。
- 翅一面にある黒い斑点は左翅の方が右翅のエリ大きい。
- 等が左右の主要相異点である。

どうしてこんなものが生れるのか、生れてからはその生態の上で同種の普通型とどんな差異を持っていたであろうか等を考えてみると興味深い。

以上が大体僕の採集し研究したものの中であるが、まだまつたものは一つもないことを遺憾に思っている。今後は分布状態、飼育状況、その他いろいろの研究を深めてみたいものと思っている。

最後に僕の標本箱(いわゆる自作のものであるが)の蝶を、日本産蝶類分類の8科目に分けて書き並べて見よう。

- アゲハ蝶科  
ナミアゲハ・キアゲハ・クロアゲハ・オナガアゲハ(採集地比叡山)  
カラスアゲハ(採集地比叡山)・ジャコウアゲハ
- マダラ蝶科  
アサギマダラ
- テング蝶科  
テングチヨウ
- フン蝶科(ミロ蝶科)  
モンミロチヨウ・スジグロチヨウ・ツマキチヨウ・キチヨウ・モンキチヨウ・ツマグロキチヨウ・スジボソヤマキチヨウ(山梨県の友人との交換による)
- セセリ蝶科  
アオバセセリ(山梨県の友人との交換による)・ダイミヨウセセリ(採

4(63)

集地京都大原)・イチモンジセセリ・ハナセセリ・チャバホセセリ・ヘリグロチャバネセセリ(珠集地伯耆大山)・キマダラセセリ・ミヤマセセリ・ホソバセセリ

○シジミ蝶科

オオミドリシジミ・ジョウガンミドリシジミ(珠集地伯耆大山)・ウラナミアカシジミ・アカシジミ・ミズイロオナガシジミ・ベニシジミ・ヤマトシジミ・ウラナミシジミ・シルヴィアシジミ・ツバメシジミ・ツバメシジミ・ムラサキシジミ・コツバメ・ウラギンシジミ・ルリシジミ・サツヌシジミ(珠集地守芸官島)

○ジャノメ蝶科

ジャノメチョウ・ヒメジャノメ・コジャノメ(珠集地京都市)・ヒメウラナミジャノメ・ウラナミジャノメ・キマダラヒカゲ・クロヒカゲ・ヒメキマダラヒカゲ(珠集地伯耆大山)・ヒカゲチヨウ,

○タテハ蝶科

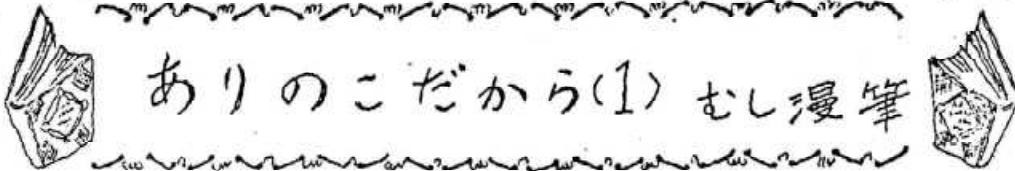
アカタテハ・ルリタテハ・ギタテハ・ニオドシチョウ・コムラサキ・スミナガシ(山梨県の友人との交換による)・エルタテハ(同じ)・クジヤクチョウ(同じ)・オオミスジ(同じ)・アサマイチモンジ(珠集地京都大原)・コミスジ・ホシミスジ・サカハチチョウ(珠集地伯耆大山)・クモガタヒヨウモン・ミドリヒヨウモン・メスグロヒヨウモン・ウラギンヒヨウモン・オオウラギンスジヒヨウモン・ウラギンスジヒヨウモン・ツマグロヒヨウモン

以上68種である。

前珠集地の珍らしい蝶は、学校へ寄附したり、保存の仕方悪く失ってしまった。  
終り

(岡山県吉備郡緑江町緑江中学校2年)





# ありのこだから(1) むし漫筆

## 広瀬義躬

上記の如く私の觀察ノート名と同じ標題の下に折々觀察した事柄を書き留めておいた中から興味あるものを拾い出して隨時發表する事とした。本稿に就いて諸兄の御教示を得るならば幸である。

### § 1 こんなところでこんな虫

虫の俘虜になってしまって現在、以前は路上で少いとすれ合った虫にも直ちに自分が敏感に反応する様になっているのを感じて、時には我ながら微笑を禁じ得ない位である。ところがいかなる場所に於ても虫に注意を向けていると思いがけない様なところで面白い虫に接する事が往々にしてあるものである。ここにあげる例はあまり面白いものとは思われないが私の経験を参考迄に記しておく。

#### I) 汽車にちなむ虫クサギカメムシ

汽車の中で昆虫が発見されそれが昆虫の移動の一因子に、甚だしき害虫の移動に汽車が一役買っている等と云う例は多く報告されているがここにあげるものもその一例である。

13/XI, 1951 私は岡山より汽車での帰途山陽線中庄—庭瀬間で車窓附近をカニコのヒョウ箇するクサギカメムシ *Halyomurpha picus* (Fabricius 1794) 1 早を発見、あいにく管ビンを所持していないかつたので pencil case に収容したところ鼻向け乍らぬ悪臭を発してその後も、3日は鉛筆盒が匂に染ってしまい困惑した思い出がある。又小野洋氏も伯備線高梁駅附近の車内で本種を採集されたヒトからヒトから本種は汽車にちなむ虫に違ひない。ちなみにはモモ、サクラ、イチジク等の果実を害し、ダイヅ、ゴボウ等の植物にも加害し日本では各種の農作物の害虫として注目されているものである。汽車による害虫の移動の一例として報告しておく。

6 (64)

II) 岡山天満屋百貨店屋上にてクロタマムシ採集す

1951年7月上旬のこと（標本を失ったので日付が不明であるが）岡山の天満屋百貨店屋上（五階）にて昼食をヒッティングする雀がえ、3匹飛来して互にものをつつき合っているのを追いかけて見るとなんヒクロタマムシ *Buprestis haemorrhoidalis japonensis* Saunders. 1頭が足を縮めて凝死の状態を呈しているので手にとって見るヒピンピンとしてまだ元気が良かつた。雀の飛来時の状態をよく見ていないので本個体が雀の口にくわえられて来たものかそれ飛来前をこにいたのか不明であるが屋上はかなり殺風景などころで申しわけに貧弱な樹木をえ； 3本程度で度でここに発生したものとは考えられないし、又地上五階（何米あるか知らないが）の高さ迄飛翔するものでもないと思う。私の推察通り雀の口にくわえられて来たものならこのクロタマムシ雀の口で空中旅行とはなかなかシヤレている。そしてあそり壁のでくわえて来た雀もてあましていた所であろう。本種は倉敷附近でもあまり多くない種である。或る昆虫雑誌に東京の或るビルの屋上とかで採集された昆虫について記してあるのを見た記憶を有すので本例の如きものがその一因子ではないかと思って記しに次第である。（22/VI - 1952 碣）



思いつくまま

清水慶子

窓にせたれて音野さんのピアノを聞きながら五日の気持ちよい風に吹かれているといつの間にか心は捕虫網をかついでヒグマわっている様な気がする……。

私は昆虫採集は大好きなのだが今まで何と計画的なものはやっていない。今考えると「どうしてあの頃真剣にやらなかつたんだろう」と残念でならない。記憶に残って居るもので道後山、遙照山（金光町にあってサンショウウオ、ムササビ、モウセンゴケ ラジニーム鉱泉（冷泉）あり）と近くの山を二つ三つ歩いた丈である。少しばかりの採集物は全部記録をせず学校

に出てしまっている。高校2年の夏休みに「青色螢光誘蛾燈に虫の飛んで来る条件及び虫の種類」という題で割合力を入れて研究を行なったが誘蛾燈に虫の飛んで来る条件は「倉敷昆虫同好会会報No.1」にある小野洋さんの結果とはゞ同じ事が出た。調べた条件がそれより小さいが、即ち一番影響するのは風力で、次に温度であった。原稿を先生に出しておいたがどうしていいでござりないのでくわしくおらせ出来ないのが残念である。

6月1日に開かれ博博物コンクールを開きに行つたが皆さんが真剣に研究していたのには感心した。倉敷市長賞を受けられた近藤さんの研究が聞けなかったのは残念だが、水野さんの「蝶の採集と研究」を聞かしていただいたい。聞いているとなんだかさみしくなって来た。蝶の名前が沢山出来るからである。名前だけ見たり聞いたりして様な名前ばかりが全然解らない。今から私がどんなに努力したってあれだけのものは採集出来ないであろう。平常のコツコツとしたまじめざの大切な事をしみじみ感じた。

昆虫に対する知識豊かな会員の皆様の中に加わらせていただきたいが何だ。かわそろしい様な気もする。どうしく御指導下さる様お願い致します。

( 1952 VI. 6 ) ( 四大教育学部1年 )

(訂正)

本誌6月号に下記の様な誤記、脱字がありましたのでこゝに訂正致します。

- 1). p.10(52) 11行 "倉敷に於ては以外に少年いらしく" をそう入一青野芳昭・案外少年いシロスジコガネ、文中
- 2). p.5(47) 4行 "8月上旬—8月中旬" を "7月下旬—8月中旬" と訂正 一著者・倉敷産ホシミスジの食草と周年経過について(予報)文中

上記青野氏に厚く御詫び申し上げます。なお先月号は筆者のガリ不手際で諸兄の意にそむなかつたことを深く御詫びします ( 広瀬記 )

8(66)



## お し か み

### アカマタ"ラコカ"ネを タコラ山で"記録"

本年6月15日、児島郡のタコラ山へ採集を試みた際、同伴の松平俊公君によつて *Anthracophora rusticola* BUAMEISTER アカマタ"ラコカ"ネがネが捕獲された。本種は倉敷附近でも多い種ではなく、スタコラ山では最初の記録と考えられるので報告しておく。尚標本は筆者が保存している。(小野洋)

### 6月中旬のハルゼミ

倉敷附近ではハルゼミが見られるのは、大体5、6月頃と思って間違はないが、6月の中旬ともなればその鳥声を聞くことは比較的稀である。本年6月15日、タコラ山に於て既にクリの花も咲き終ろうと云うのに、多数の個体の頭著な合唱を終始耳にした。同伴の松井俊公君も頭をひねっておられた。この時期にかなりの県北に於てはこの事は恐らく普通に見られるものと思われるが、こ

の頃倉敷及び岡山の津島あたりでは既に全く聞くことは出来なかつた。

(小野洋)

### タコラ山にセアカウスグロ リンゴ"カミキリ"

本年6月15日、タコラ山の峠で空を見廻していたところリンゴ"カミキリ"の一體が、彼方の恐ろしく深い繁みの中に静止したのを認め、衣服の破れるのをものとせずその中に苦心攀掛入り込んで遂に捕獲したのが本種 *Oberca vittata* BLESSIG であった。本種は金山附近でも採れるが、南部特に倉敷附近での記録は全くないので報告しておく。(小野洋)

### タコラ山の ヘリグロリンゴ"カミキリ"

タコラ山の南側の坂で、本年の6月15日松井俊公君によつて捕獲された *Oberca marginella* BATES は比較的山地に於ては普通なものであるが、いまだ倉敷附近での記録はな

い。標本は筆者が保存している。

(小野 洋)

### タコラ山に多い

#### タカサゴシロカミキリ

本年の6月15日の事、タコラ山を越して瀬崎村の清水というあたりにさしかかった。と突然筆者の beating net に美しいブトカミキリの一株が入って来た。見ると *Olenecamptus formosanus hondoensis* SEKI タカサゴシロカミキリである。本種は倉敷附近では毎年黒田に於て3、4個体が捕獲されるに過ぎず、近年では比較的少ないものである。更によく観察したところすぐ近くのハンノキ林に多発生しているのを見た。枝を打つ度に4、5個体落ちてくる。近藤光宏君が5個体、筆者9個体を採集した。これはかなり山を下って平地に至る間、大抵のハンノキには見られ、丁度発生期であったらしく、非常に数多く発生している如く見受けられた。(小野洋)

#### セアカリノカメムシ

#### タコラ山に産す

本年6月15日、児島郡タコラ山に孫奥を試みた際、昼過ぎに既にタコラ山を越して瀬崎村の清水附近にさしかかった、次山のハンノキがあり

下草が豊富である。そこでのクヌギを持ったヒコロ空にやらころげ込んだあやしくも美しいツノカメムシと見えたのはひがめか。急いで拾上げて見るとはたして羽化したてのつやつやしさ *Acanthosoma denticauda* JAKOYLEV 1880 の早であった。本種は岡山県では南部に於ては比較的小いものの如く、倉敷附近では全く未記録である。伯耆大山では普通に見ることが出来る。(小野洋)

#### コマダラオトシブミ

*Pareplatynotus pardalis* SNELL EN van VOLLENHOVEN コマダラオトシブミはくり、くぬぎ、ならの葉を捲くもので、体は黄褐色で前背板反翅鞘には黒色の斑紋があり、4、5月に発生する。比較的普通なものであるが、やはり山地に多い様である。県下でも金山あたりには既に普通に見られるし、倉敷附近でも恐らく産すると思われるが、本年6月15日タコラ山に於ても近藤光宏君により1個体採集されたので報告しておく。尚本種には前背板、翅鞘をほんんど黒化したもののが見られ、道役山産のものは大抵これである。

(小野洋)

10(68)

## タコラ山での割合めず らしい蝶の採集短報

1952年6月15日 ウラナミジヤメ1頭、ヘリグロチャバネセセリ2頭採集。

ヘリグロチャバネは高山地に発生するものであるが岡山県でも最南部で採れた事は珍らしさと思ふ。金山でセウラナミジヤメ1頭を採集(岡大教1年清水さん)当種は関西では普通的であるにも拘わらずその個体数は少いのである。ヘリグロチャバネは確かだうが専門家の鑑定ではありませんので後日再び確めて記載いたします。取敢えず御参考までに記しました。

(岡大農学部1年松井俊公)

## キマタラレリツバメ の新産地

1952年6月17日勝田郡勝田町久賀通称ゴーロに採集に行つて隙期等に反し何も獲物がなく失望して帰途につくと、ふと目前に見馴れぬ蝶が飛止していたので急いで捕虫網をひろげて採集をしたところ、珍種キマタラレリツバメ *Spindasis takanonis* MATSUMURA のものであった。

本種は本邦産シジミチョウ科中最も

熱帶的色彩の濃厚な種で、現在迄に岐阜、京都、兵庫、滋賀、鳥取、岡山の各県より知られている。本県の既知産地は筆者の知るかぎりでは、和気郡三國村、那岐山、阿哲郡北部真庭郡勝山町神庭附近である。唯一の一個体の採集記録であるが一応新産地として報告したい。

(守東瑞夫)

## 津山 鶴山城 のミスジチョウ

本種 *Neptis philyra excellens* BUTLER はいすれの地にも多くないので、当地もその例に沿はず稀な種に属するものであるが、津山鶴山城には比較的多産すると思われる。即ち今年発生期に亘って二回私用で津山へ行った際帰途汽車の発車時刻まで相当時間があつたので散歩がてら塗って見たところ少數ながら本種を目認する事が出来た。時間をかけて精査すれば相当数の個体が得られる事と思う。参考迄に記録を記して見る。

▽~23 1952 1頭目撲

▽~28 1952 2頭目撲

(守東瑞夫)

11(18)

## 蜻蛉の衝突

1952年5月15日勝田郡勝田町久賀附近通称ヨーロに採集に行った際川にさった小路を歩いていたところ、ダビードサナエさんがかなりのスピードで飛んで来たかと思うと私の目前で正面衝突して叢の中に墜落してしまった。相当勢よくぶつかったものらしく双方とも簡単に素手でつかまえることができた。トンボの視力は非常に強いため云うことは周知のことであるが、視界をさえぎる何の障礙物もない路上でこのようなことを目撃したのであるが、餘り見受けられないことなのでつまらないことだが筆をヒって見た。

(守東瑞夫)

## キイロサナエの水難

本年5月11日、反野良一氏ヒ2人でオグマサナエ等が目的で福島山附近に採集に行った際、川辺りで *Gomphus pryeri* SELYS キイロサナエの著しい発生を観察した。どの個体も今羽化したばかりの、みずみずしいもので、しかも翅が完全に伸びずに終ったものが草につかまっており、更によく見るとすがぬれの個体が流れの中からコンクリート伝管に上って来ていたり大変珍らしかった。

翔してある如くのものが完全一色も変わっておらず、且て当日羽化した個体らしく、昨日以前羽化したと思われる個体は見られなかった。岸の水ざわらを見たところ極めて短時間の中に水深が急激に増加したことによらかで、川上で水門でも上げたことによるらしい。水面から十数cm下にも殻が多く発見された。多くの個体がせっかくの一生一度の羽化中を襲われたのであろう。まさにキイロサナエにとっては大災難で、気絶したことであった。(小野洋)

## キアゲハの虫甬ヒ 環境色

去る1952.5.27の正午在松町にてセリュを食していたキアゲハ幼虫を飼育箱で飼育していく所5月31日本種が蛹化したが、一般にこれ等の蝶が蛹化する時は環境の色によつて、ねずみ色とか草色それに似た色になるのが普通ですが、筆者の飼育箱の蛹化した所は「カナアミ」に草色の人工色をほどこしているにもかかわらず、本種が人工色に左右されていなのは面白いので、こゝにこれを報告したいわけである。以上

(近藤光宏)

12(70)

## 今年の黒田産ウラジロ ミドリシジミとウスイロ オナガシジミ

去る15/4在音村黒田にネットを振る機会を得て特望の本2種を採る事が出来ましたので報告致します。当日は早朝から曇天でありましたがそのうち薄日が深い雲間からさし始じめて黒田に着いた時は採集には絶好とは云えまい迄もかなり楽観的状態となり途中阿部、若林の両君と出会い一緒に採集しました。最初はやはり例の如くウラナミアカシジミでありますましたがその数も例年に比して少くない様に感ぜられ(発生期の加減かも知れません)他にアカシジミを散見しといった程度で“黒田もううだめだ”的感を深くしましたが昨年青野氏から教示を受けたウラジロミドリシジミを採った附近へ行って見ますと本種は見られませんでしたがウラナミアカ、オオミドリの発生がかなり顕著でありました。その附近をかなり深したのですが遂に本種の姿見られず絶望的な状態で山下りかけましたが他の地点で阿部、若林の両君のウラジロミドリを採ったとの声に群る笙をかきわけて未だ低

いカシワが散在している附近でついに待望のウラジロミドリ2♀を採りました。いずれも羽化直後のもので飛翔中の本種は白銀色に輝いて非常に敏捷でした。阿部、若林の両君各々♀1頭を採って居りこれ以上になるとヒ乱獲になるので本種の採集を止めて少し降りヒウスイロオナガを破損個体をネットに入れて大いに気をよくして下山しました。両君の話によると或る一部の人々が大乱獲を行うの由、その真偽は別として黒田の昆虫特にウラジロミドリヒウスイロオナガの両種は求めて多いものはなく今後この黒田に於ける両種保存の為に諸兄が乱獲防止に御協力下さることを望む次第です。

22/VI, 1952 福

(左瀬義躬)

## ヤマトモンシデムシ の寄生ダニ?

19/IV-1952 倉敷市老松にて飛翔中のヤマトモンシデムシ *Nicrophorus japonicus* HAROLD を採集した。採集して腹面を見たところ本種の腹部の横じわに沿って大型のダニの一種が多数寄生し腹部の一部にしわに沿う細長い穴を開けた部分

13(71)

29日にそれを41個体を採集しているので報告しておく。(小野 洋)

## ウリハムシモドキ

に特に密集していた。しかし残念なことには採集した本種を途中で逃げてしまつたのでその寄生者を正確に知ることは出来なかった。この様にこのヤマトモンシデムシは筆者の一寸の不注意から敏しそうに逃げて強力に飛翔するなど寄主の与える影響は少ない様に思われた。本種が飛翔している状態は実に美しく旋回しながらレンゲ草等によく近づくので私は採集する迄ハナアブ等の類だろうと思っていたのである。一観察ノート「ありのこだから」より(1)

27/IV-1952 (広瀬義範)

## ビロウドカミキリ

本種は、現在迄に倉敷附近では鶴形山に於てのみ記録の見られるもので、そう沢山は居ない。本年6月15日、筆者甥末広泰憲が旭町にて1個体捕獲したので、記録として一応報告しておく。(小野 洋)

## 羽島のカメノコテントウ

倉敷附近のカメノコテントウの产地としては清音村黒田が著名で、2,3年前からこゝでは5,6月頃にかなり採集される。最近筆者甥末広泰憲が、倉敷市羽島に於て6月22日、

本誌Vol.1, NO.10に記したところの昨年、岡大教育学部の学生に大巻生をしたウリハムシモドキは、今年も巻生が見られるが、昨年とはそこのアコラが著しく異り、他の雑草の甚だしい繁殖をみ、観察が困難となつたが、最近見るところでは昨年に較べ非常に少いし、活動は比較的緩慢である。(小野 洋)

## 今年のオオキンカメムシ の記録

倉敷地方に於ける *Eucorysses grandis* (THUNBERG 1783) の記録は、本誌 Vol.1, NO.6 に台神昭君が1951年6月18日に鶴形山のケヌギにて“この南国的なカメムシをして雀躍りした”と記されているのが最初であり、その後、中学生の方によつて羽島山からも採集された。現在では確実な記録は恐らくこの2個体のみと考えられる。

本年6月22日、筆者甥末広泰憲が倉敷市羽島の道路辺りのイに静止していれた本種を採集したので報告しておく。(小野 洋)

14(72)

## ヘリグロチャバネ の新産地

ヘリグロチャバネセセリは一般に山地性で総社町附近で今までに（と云っても去年一年だけの調査で）見たことはなかった。去る6月25日この日は天気が悪かったが、元気を出して豪渓へムラサキツバメを目的に調査に行くことにした。途中総社町通りに於てトテックを越けるため道の側へ自転車から降りてふと前を見ると、少し風に吹かれる土の上に一匹の黄色なセセリが静止して、さかんにアンを動かしている。始めはキマダラセセリだらうと思ったが、小形なのでおかしいと思いながらネットを手にすると、おどろいたか少し飛んだ。しかし非常にのろくて足元三キロ、ヨロヨロ飛ぶだけである。すぐに採集できたがおどろいたことに、総社附近では始めてのヘリグロチャバネセセリであった。大いに気をよくして豪渓へ行った。ヒ豪渓についてから200m位登ったところで一頭採った。これは紫色の花に来ていてものだったが、非常にうれしかった。このことからこの附近には本種も割合に発生するのではないかと思つたが、これ以上採ることは出来なかつた。

あしいことに豪渓で採ったものを不注意で矢くしてしまつたが、総社町産のものは持っている。

・豪渓のムラサキシジミについて去年書きましたが、実際には採集出来なかつたので少し不安になつたのですが、先日、吉備郡足守町の間野幹夫氏が二個体豪渓で採っておられるのがわかり、一寸安心しました。間野氏のは10年位前のものですが、少し奥に入らなければ採れないそうです。又高いところで、踏み入りにくい所だそうで増え採集困難のようです。

又、ここでクロツバメシジミも少し採っておられました。

(水野弘造)

## ダイミョウセセリ 豪渓に産す

総社町附近で（倉敷附近でもおそらく）発見出来なかつたダイミョウセセリを豪渓で発見したのでお知せする。

6月25日豪渓に行つた際、相当奥地まで行き大和村に入つた頃、躑躅の枝から黒いセセリが飛び出し

15(73)

たが蝶とよく似ていたのでも少しで  
通りすぎすところだった。しかしす  
ぐにカマに静止したのでダイミョウ  
セセリヒカカリ、ネットにおさめた。  
相当古いもので後翅等は大破してい  
た。標本は僕が持っている。

(水野弘造)

## 蝶の訪花二・三

前号には蝶の訪花に関する記事が  
ト、載つたらしい。僕もついについて知っていることを述べよう。ヒ  
云つても僕はあまり本を読んだことが  
ないので、どの種がどんな花に來  
るか全然と云つてよい位知っていな  
い。したがつて珍らしいことと思つ  
てここに出しても本当はごく普通の  
ことであるかも知れないが。

・ヒメウラナミジヤノメ — 4月19  
日、総社町門田の桜谷へ採集に行つ  
て、すでにコミスジ、キマダラヒカ  
ゲ等取つて矢をよくしていだ所だ。

ミヤマセセリを追つて行つたところ小川に渡つやぶから一頭のヒメウ  
ラナミジヤノメが出て来て、そこら一帯に咲  
いているリッジ(花の色は薄桃色の  
山に最も普通のもの)の花の一つ一  
つに訪れて吸蜜しはじめた。しばらく  
観察したが、ネットにおさめてし

まつた。

テングチョウ — 3月9日総社町  
田町の自宅附近のイヌノフグリにて  
テングチョウが一頭来ているのを見た  
いそいで採集した。吸蜜していだこ  
とはほとんど疑ひないがたしかめて  
いない。

クロアゲハ — 4月27日総社町田  
町で、クロアゲハ雄一頭がゆるやか  
に茶の花に舞ひ下り、それにぶら下  
つて吸蜜しているようであつた。た  
ゞちに採集したのでくわしい歳数は  
出来なかつた。なおその茶の花では  
だ一本生えていたもの。クロアゲハ  
は羽化したものであった。

4月中旬のある日(友人、歌村君  
より聞いた話だが)一頭のクロアゲ  
ハが、総社町門田のダンボポに来て、  
翅を動かせながら吸蜜していたそう  
である。本当に吸蜜していだかどうか  
可疑らしいがダンボポにいたと云う  
ことは本当であるらしい(実際にそ  
の花を示してくれた)。

ヒオドシチョウ — 本種は越冬す  
ると春に花に集る……と云う様な記  
事を何かで見たことがあるが、去年  
4月、総社町田町の自宅附近で、大  
破損のヒオドシチョウ一頭が茶の花  
を訪ずれて吸蜜しているのを観察し

16(7巻)  
た。

以上簡単ですが何かの御参考にで  
もなければ幸です。(水野弘造)

## 蝶の訪花二題

最近下記の蝶の訪花を観察した。  
新村太朗著「蝶の生活」にも見当ら  
ない様なので報告しておく。

1952年6月30日 岡山市津島

アオスジアゲハ→ヒメジヨオン

1952年7月1日 岡山市津島

ベニシジミ →ヒメジヨオン  
(小野洋)

### ドウガネブイブイ 虫漬を食す

1952年7月1日、岡大農学部で採  
集を行つてい際、坦根の*Rosa* sp.  
バラの一種にバテトリングタマバキ  
の虫害と思われるものが非常に多く  
ついているのを観察したが、その時  
一個体のドウガネブイブイが一つの  
虫害に頭を突込んで懸命にそれを攝  
食しているのを発見した。面白いと  
思ったので報告する。尚虫害は紅赤  
色をして美しく直徑6mm内外の球  
形のもので一葉にかなりついており  
中には幼虫が見られた。

(小野洋)

### 本年のニイニイセミ の初鳴日

7月に入つて初めて本種の鳴声古  
耳にすることが出来た。現在迄に筆  
者の知り得たのは下記の通り。

1. 7月2日 津山郡金光町  
井手千代子氏
2. 7月3日 岡山市津島岡大農学部  
青野秀昭氏
3. 7月3日 岡大農学部ケヤビ  
筆者

4日には既に数個体のものが聞くこ  
とが出来た。(小野洋)

### メスグロヒョウモンの 触角と前翅、後翅

去る1952.5.3彦崎タコラ山で  
採れた本種の触角は右と左で長さの  
上から見て3mmぐらい違いがあつ  
たが、それが5月14日触化し同26日  
羽化してから見ると触角は幼虫期の  
様な違いは全くなくつたが、その側  
の前翅、後翅にいちじるしい変異が  
ある。これは色々と考察されるがそ  
の一つは蛹化せる時の条件が悪かつ  
たからかもしれない。それについては木  
シミズジなどはこの条件に大きく支  
配されている様である。又一方何ら

関係なく、この様になつたのかもしれない。もし触角と翅が何か関係あるならば實に面白い事であろうと思ひこの事が他にも例があるのではないかと思われるるので参考までに報告しておく。追加として羽化せる時の条件には異常は少なかった。今お手元は筆者が保管している。以上

(近藤光宏)

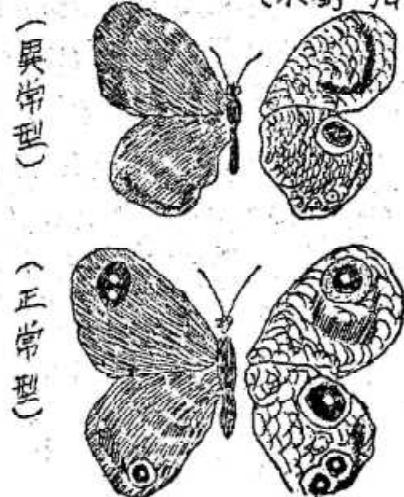
### ウラナミジヤノメの一異常型

6月17日、総社町門田の桜谷へゼンタイス発生調査に行った際、墓地の桜込木から、この小型のジヤノメが飛び立つたので、静止するのを待ってみた。すぐに木の葉の上へ静止したが、普通のヒメウラナミジヤノメとは少し違う。桜谷にはウラナミジヤノメも稀に見かけるから、それかもしれない——しかし、それとも少し違う様だ。一等と思いながらキャッチする機会をねらっていたが、4~5回飛び立つた後、丁度、採りやすい葉の上へ止つたのですかさすネットに入れれる。

家に帰ってよく調べると明らかにウラナミジヤノメの異常型であることがわかった。第一に発生期がヒメウラナミより非常に遅い。(個体は

羽化直後の完全なものである。このところ珍れるヒメウラナミは非常に古いもののばかりである。そして丁度ウラナミジヤノメの産生期となる)それに裏面後翅の蛇目紋の数が3コであつてウラナミジヤノメと等しい(桜谷産のウラナミジヤノメの裏面の蛇目紋は一般に大形であるが、これは非常に小さく現われている。又前翅裏面の紋は消失している)。ヒメウラナミより大型である。等の点から明らかにウラナミジヤノメの異常型であることがわかった。表面の紋は前後翅共に完全に消失全くわからない。これは斑紋消失異常型とでも云うのであろうか。新昆虫別冊「日本の蝶」によると、本種の異常型はまだ知られておらずそれがここに知らせておく次第である。

(水野弘造)



18(76)

## "本会寄贈同好会誌紹介"

昆虫石見 No.2 (1961) 東田昆虫同好会発行  
蝶・特集号

### 主内容

——：イシガケチヨウ採集 - 三瓶山室内。

久須悟郎、佐々田謙：西部中国山脈の蝶類オーバー報

岡田福裕：アサマイキモンジヒシリク"アシジミ

——：石見地方産蝶類仮目録(100種)

その他短報多数を載す。全20余頁を蝶の記事で埋めている。印刷は会員の手でなされているが実に立派で同好会誌としてかなり版印刷の高い水準を作るものと思う。内容に於てもっと特色のあるものが欲しい。一般に分佈に関する報告が多い様である。(新昆虫 Vol.5, No.1 同好会誌月評参考) (文責Y.H.) 希望の方は役員の方へその旨を仰伝え下されば宜い。という限りいつでも御覽に入れます

### 鳥取市の大火灾に就いて

4月27日に突然起った大火災に多数の損害を受けた事は既に新聞やラジオで知られた事と思います。で虫友宅はどうか? こゝにその正確な事実を知らせしますので御安心下さい。虫友5名宅を焼失全体の1/4位です。多くの人は郊外か山麓地帯の屋敷街ですので別に大した事になかったのですが先輩番河氏宅には幾万の標本がありそれを焼いたのは實に残念です。又岡山大学医師の竹内氏宅も焼かれ多くの標本、文献も失い我が郷土は夜乱をまさちらして居ります。現在竹内氏だけは無事定住されましたが(松江府近の病院勤務)他の人の消息はつきりしません。次に山ですが、紫雲山の一部と久松山の裏側は相当被害がありました。が原始林は全々焼いて居りません。

以上簡単に火事の報をしておきました。

K. N

19(7月)

## 二新二入二会二員二

50. 松井俊公 現住所 岡山市

岡山大学農学部1年

訂正 1月号と一緒に配られた会員名簿の中の私の住所が誤って書いてありましたのでここに訂正しておきます。

41. 水野弘造 (総社町西中学校3年)

岡山県都窪郡総社町 → 岡山県吉備郡総社町……

### 求む

- 1) ホシミスジの訪花を観察された方御知らせ下さい
- 2) 蝶の前花 — 特に Zephyrus類 ジャノメヨウ類 の訪花を観察下さい  
上方御一報下さい。
- 3) 蝶の交尾飛翔形式観察に御協力下さい。
- 4) ジャノメヨウ新鮮、破損に限らず多數御提供下さい。但し在品に  
限る。標本不可

上記いずれか御知らせ下さいか御提供下さいれば、標本の交換、提供  
その他なんらかの処置をとるつもりです。御協力下さい。

(倉敷市田之上822番地 宏穂義郎)

### 編集後記

連日の雨もあがりやっと夏らしくなったと思う間もなく、昨今の  
むし暑さは又格別でございます。

水銀柱の上昇率の蒸晴らして。それあってかあらぬか、本誌への寄稿熱も蒸晴らしく上昇。既に積まれた原稿に編者は嬉しい悲鳴をあ

げろ始末。遂に20頁に増刊を実行することに致しました。特にあとしづみ多く、さながらおとしづみ特集号の様相を呈しています。皆御活躍の程が目に見える様でございます。次号にはパキスタンから帰られた黒田氏が何か書いて下さる予定です。御期待下さい。

倉敷昆虫同好会

1952



すずむし 第2巻第7号

昭和29年7月19日 印刷

昭和29年7月20日 発行

編集 青野孝昭

印刷 青野孝昭

発行所 倉敷市新川町

倉敷西小学校理科教室内

倉敷昆虫同好会